

## 各委員(団体)の健康づくりの取組状況報告

岩田 稔恵 委員	兵庫県連合婦人会副会長
<p>健康に関する講演会には、積極的に参加している。</p> <p>100 歳体操等にも参加している。</p> <p>定期健診やドック等を受けるように心がけている。</p> <p>これからも継続していく。</p>	
臼井 里佳 委員	兵庫県愛育連合会長
<p>愛育連合会は、若者や子育て中の親子を支援する事業や、乳幼児から高齢者への声かけ運動を通じて、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいる。</p> <p>地域では、高齢者の姿を見かける機会が減っているが、今後、認知症高齢者の増加は避けられない状況である。昨年度は、ひょうご県友会神戸支部と共に「健康で認知症とともに暮らす社会を目指して笑顔で広げよう」と題した啓発活動を実施し、今年度は、その学びを活かし、県内各地で取り組みを推進している。</p> <p>例えば、豊岡市の竹野愛育班では、認知症に関する普及啓発活動や勉強会を行い、理解を深めるとともに、市の自立支援事業でお弁当を作り、調理が困難な高齢者へ訪問して安否確認をかねて弁当を届けている。また、佐用町の江川地区愛育班では、地域ボランティアが運営するデイサービスを手伝い、寝たきりや認知症予防につながるプログラムを工夫している。このように、認知症になっても住み慣れた地域で共に暮らす社会を目指し、県内各地で活動を続けている。</p> <p>さらに、7月16日に開催した「ひょうご愛育の集い～兵庫県愛育大会～」では、神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 味木和喜子教授をお招きし、「知って得する健診・検診のイロハ～生活習慣病を予防しましょう～」と題してご講演いただいた。講演では、兵庫県のがん検診の受診率は全国より低く、改善が課題となっていることを伺い、地域の住民の皆様が、生活習慣病やがんの予防の重要性を再認識し、健（検）診を受けていただけるよう、声かけ運動等、様々な活動の場で改めて周知していきたいと考えている。</p> <p>近年、地震や豪雨などの災害が繰り返されているが、平時に築いた地域の絆は、有事の際に命を守る力となる。今後も人と人とのつながりを大切にし、地域全体で支え合う仕組みをさらに強化していきたい。</p>	
尾崎 吉晴 委員	兵庫県町村会理事（福崎町長）
<p>町民や保健医療等の関係団体の代表などで構成する「福崎町健康づくり推進協議会」を年3回程度開催。福崎町すこやかヘルスプラン（健康増進計画・食育推進計画・自殺対策計画）に沿って、生活習慣病の予防、健全な食生活の推進、こころの健康と生きることの包括的な支援を柱とし、関係機関等が連携を図りながら、妊娠期から高齢期までライフステージごとに健康づくりの取り組みを実施。現在、令和8年度から令和12年度の5年間となる福崎町第2次すこやかヘルスプランを策定しており、上記会議で検討。</p> <p>&lt;主な取り組み&gt; 健康・食育教室の開催、町ぐるみ健診・ゲートキーパー研修など</p>	

小塚 ひとみ 委員	公募委員
自分の健康に責任を持って取り組むきっかけとして、地元の住民を中心に看護師、管理栄養士等の専門職と一緒に健康セミナーを開始している。	
古和 久朋 委員	神戸大学大学院保健学研究科・医学部保健学科教授リハビリテーション科学領域 脳機能・精神学障害分野
認知症の予防を目指した各種介入のエビデンス構築とその社会実装を目指した取り組みを県内各所で展開している。	
阪上 雅史 委員	一般社団法人兵庫県病院協会副会長
<p>会員病院の職員を対象とした講演会や研修会の開催、会報誌の発行により、県内における医療の現状や課題等を情報発信するとともに、病院職員の永年勤続表彰を行うことにより病院職員の資質向上や仕事へのモチベーションを高めることにより、地域医療体制の確保、県民の健康の維持増進に寄与できるよう努めている。</p> <p>またコロナ禍においては、行政と医療機関の調整役となって医療体制の確保を図ることにより、県民をコロナの脅威から護ることができたと考えており、今後も新興感染症や災害に備えた医療体制を確保することにより健康危機管理の一翼を担っていく。</p>	
笹嶋 宗彦 委員	兵庫県立大学社会情報科学部 教授
DX や AI システムにおける知識の活用が専門であり、健康に関しては、明石市と看護学部との共同研究で、こころの健康を支えるための情報サービスづくりや、播磨町と看護学部との共同研究で子育てを支える保健師さんの仕事を支援するための仕組みづくりに取り組んでいる。	
田中 伸明 委員	株式会社神戸新聞社論説委員
<p>引き続き、神戸新聞の「からだ面」などでさまざまな健康情報を発信している。</p> <p>個人的には、コロナ禍の間に十分発信できなかったがん患者の社会生活の支援、AYA 世代の支援について取り上げていきたいと考えている。</p>	
谷本 俊江 委員	一般社団法人兵庫労働基準連合会専務理事
当団体は県下 11 の労働基準協会と共に、県内の労働者の健康確保を目指した事業場向けの活動を行っている。具体的には、毎月発行している会報誌で労働局・監督署からの情報の周知、会員事業場へ労働衛生週間・過労死等防止啓発月間等の取り組みの呼びかけ、県単位と地域ごとに安全衛生大会の開催等の実施により、健康づくりへの気運の醸成を行っている。直近では、熱中症対策の講習会の開催や高齢者の災害防止対策のエイジフレンドリーガイドラインの周知を行っている。	
登里 倭江 委員	兵庫県いずみ会長
<p>幅広い年代に対し、食生活改善に向けた講習会や料理教室を県内各地で実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子対象の料理教室やお弁当教室</li> <li>・小中高生対象の料理教室（味噌汁の塩分濃度測定により減塩の講習など）</li> <li>・働き世代対象の講習会や減塩味噌汁試食会</li> <li>・高齢世代対象のフレイル予防料理教室</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	

橋本 加代 委員	公益社団法人兵庫県栄養士会長
<p>主な取り組みは以下の通り。</p> <p>生活習慣病予防等の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・減塩対策、若い女性のやせ、フレイル予防等の対策について、「ひょうごの健康的な食環境づくりプロジェクト」に参画し、産・官・学と連携し進めている。</li> <li>・若い世代の朝食摂取率向上のため、「大学生向け朝食摂取率向上プロジェクト」を県内3大学の学生が主体的に取り組めるよう支援している。</li> <li>・働き盛り世代を含め高齢者のフレイル予防のため、県内10圏域に栄養ケア・ステーションを設置し、身近な地域で食支援を受けられる体制整備を進めている。</li> <li>・栄養ケア・ステーション等で活動する管理栄養士・栄養士の人材育成のため「在宅栄養ケア実務者育成・スキルアップ研修会」等を実施している。</li> </ul> <p>健康危機管理への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の食支援を的確かつ迅速に実施するための、「JDA-DAT 兵庫」で活動する管理栄養士・栄養士の人材育成のための研修会を実施するとともに、日本栄養士会・県等で実施している訓練に参加している。</li> </ul>	
橋本 芳紀 委員	一般社団法人兵庫県歯科医師会長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 口腔がん啓発ポスター（県補助事業）</li> <li>2. 口腔がん対策推進講演会（県補助事業）</li> <li>3. 妊婦歯科健診啓発リーフレット作成</li> <li>4. 県下障がい者歯科診療施設案内リーフレット作成（県委託事業）</li> <li>5. 郡市区会県民啓発事業助成</li> </ol>	
八田 昌樹 委員	一般社団法人兵庫県医師会長
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病対策の推進について</li> <li>2. 「がん・生活習慣病講演会」の開催について</li> <li>3. 県民への健康情報の広報について</li> </ol>	
林 時彦 委員	兵庫県市長会（丹波市長）
<p>令和8年度～令和19年度を計画期間とする健康たんば21 第3次計画を策定中。</p> <p>市の特徴として、循環器疾患（心疾患、腎疾患）のSMRが高く、減塩の意識が低い、塩分摂取量が高いことから減塩を推進している。健診項目に尿中食塩摂取量を追加し、減塩への意識づけと健康相談で減塩への取組を支援している。</p> <p>神戸大学と共同で取り組む認知症予防介入研究事業では、40歳～74歳までの方を対象に頭と体を使った運動教室の開催及び地域に根付いているいきいき百歳体操の追加プログラムとして頭と体を使った運動プログラムDVDを提供し、その効果を検証中である。</p>	
松田 年司 委員	兵庫県介護老人保健施設協会会長
<p>老健施設では認知症の利用者に対する「認知症短期集中リハビリ」をOT中心に行い、認知症の症状でお困りの利用者を積極的に受け入れている。しかし、例えばBPSDが著明な利用者に特効薬的なリハビリがある訳ではなく、対応に難渋しているのが現実である。認</p>	

<p>知症神戸モデルに始まる県内の取り組みから早期診断の成果が出ている一方で、BPSD が問題となっている利用者に直接対応する介護の現場では大変な状況が起こっているのも事実である。認知症に関する知識を得る機会は多くなっているが、知識を目の前の利用者に当てはめるだけでは、なかなか通用しない。私の施設では心理士が相談にのる事で、知識を使って考える事が出来る様な体制をとっている。しかし、今のところ心理士を呼んでこの体制を利用する事も少なく、まだまだ地道な努力が必要な状態となっている。それでも介護の現場で BPSD に対するスキルアップを心理士が直接支援できる意味は大きいと考えられ、心理士が様々な現場の近くに配置される必要性を感じている。</p>	
丸山 総一郎 委員	神戸親和女子大学名誉教授
<p>① 「精神障害の認定基準」について、厚労省専門検討会委員としての発言と活動。特に過重労働や種々のハラスメントについて精神疾患発症との関連性と対策を検討。</p> <p>② 精神障害の認定について、労災医員として認定実務及び訴訟事案の相談対応。</p> <p>③ 産業精神保健の関連学会において、エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング（EBPM）に繋がるストレス・メンタルヘルス関連研究の推進（書籍・論文の執筆や研究指導など）と学会講演。</p> <p>④ 兵庫産業保健総合支援センターの産業保健相談員・メンタルヘルスアドバイザーとして、メンタルヘルスの相談対応やセミナーの開催。</p> <p>⑤ 総括産業医として、地域・職域連携の実践活動に取り組む。</p>	
丸山 美津子 委員	公益社団法人兵庫県看護協会長
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象とした健康支援講座、介護予防講座への看護職派遣</li> <li>・高齢者施設等への感染症予防、認知症対応等に関する高い専門性を持つ看護職の派遣（リソースナース派遣）</li> <li>・生活習慣病対応、認知症看護等を内容とする研修実施 （主な内容：高齢者の暮らしを支えるケア、認知症対応力向上研修、糖尿病重症化予防、感染症対策、産後のメンタルヘルスケア 等）</li> <li>・まちの保健室活動 （健康相談、健診受診勧奨、子育て支援、防災・減災教育等の相談・教育実施）</li> </ul>	
三木 靖治 委員	公募委員
<p>兵庫県柔道整復師会としてフレイル予防体操教室 講師派遣（体力測定、体操運動指導） 個人として体操教室</p>	
三宅 圭一 委員	一般社団法人兵庫県薬剤師会長
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くすりと健康の週間」の実施（講演会、お薬相談、健康チェック）</li> <li>・薬物乱用防止啓発及びくすり教育等事業</li> <li>・自殺ハイリスク者対応力向上研修</li> <li>・禁煙指導薬剤師の養成</li> </ul>	

宮前 エツ子 委員	公益財団法人兵庫県老人クラブ連合会理事
盆踊りでフレイル予防、そして、新たな老人クラブの誕生へ 会員やクラブが減少する中、好きな事で健康づくりと仲間づくりへと繋がり、今では新しいクラブが誕生。毎月楽しい時間を過ごしている。	
山口 恵 委員	公募委員
歯科衛生士として、地域住民対象に通いの場などでオーラルフレイル・フレイル予防を伝えている。	
山本 剛大 委員	日本放送協会神戸放送局コンテンツセンター長
NHK神戸放送局では、健康や医療に関するニュース・情報を、県域の番組「リブラブひょうご」やラジオ、インターネットなどを通じて発信している。この1年ほどの間に、関心の高い感染症については、インフルエンザや百日ぜき、リンゴ病などの感染拡大を、また、はしかや結核、SFTS、エムボックスなどの感染事例を、それぞれ対策とともに報じた。猛暑に伴って相次いだ熱中症については、各自でできる予防策や、近くにいる人が対応できる応急処置、職場の対策義務化の動きなどを紹介した。このほか、急な病気やけがの際に救急車を呼ぶべきかどうかなどを相談できる「#7119」が県内すべての自治体で利用できるようになったことや、自治体によるワクチン接種、卵子凍結への助成、マイナ保険証への移行などについて周知した。医療的ケア児とその家族に対する支援の課題や、県立病院の経営状況と改善策については、それぞれレポートで伝えた。さらに、阪神・淡路大震災 30 年を機に神戸市医師会が立ち上げた災害医療チームや、JR福知山線脱線事故を契機に結成された災害死亡者家族支援チーム（DMORT）の取り組み、えん下障害のある人たちのためのスイーツ開発、入院患者に寄り添うファシリティドッグの導入などをレポートや記者解説で伝え、こうした分野への関心を高めていただけるよう取り組んでいる。	